

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	沼津情報・ビジネス専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
専門課程 (工業)	高度 IT エンジニア科 (旧 高度 IT ビジネス科)	夜・通信	55 単位 1500 時間	13 単位 320 時間	
	コンピュータ科	夜・通信	32 単位 770 時間	8 単位 160 時間	
	ゲームクリエイト科	夜・通信	40 単位 1140 時間	10 単位 240 時間	
	CG デザイン科	夜・通信	62 単位 1660 時間	10 単位 240 時間	
専門課程 (商業実務)	ビジネスソリューション科 (旧 ビジネス科)	夜・通信	33 単位 1020 時間	7 単位 160 時間	
	公務員科 2 年制	夜・通信	120 時間	160 時間	
	医療事務科	夜・通信	31 単位 750 時間	7 単位 160 時間	
	国際ビジネス科	夜・通信	500 時間	240 時間	
	国際ホテル・旅館科	夜・通信	10 単位 290 時間	7 単位 160 時間	
専門課程 (教育・社会福祉)	こども保育科	夜・通信	71 単位 1395 時間	10 単位 240 時間	
専門課程 (衛生)	製菓・製パン科	夜・通信	63 単位 1890 時間	7 単位 160 時間	
(備考) 令和 8 年度より全科の教育課程が変更となるため以下ようになります。 ・「高度 IT ビジネス科」は「高度 IT エンジニア科」へ名称変更。 ・「ビジネス科」は「ビジネスソリューション科」へ名称変更。 ・「公務員科 1 年制」は募集停止のため、入学生なし。 ・「公務員科 2 年制」は募集停止のため、2 年生のみ在籍となる。 ・「国際ビジネス科」は募集停止のため、2 年生、3 年生のみ在籍となる。 ・「国際ホテル・旅館科」は新設のため、1 年生のみ在籍となる。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ (https://www.numasen.ac.jp/public/)
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沼津情報・ビジネス専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ (<https://sist-net.ac.jp/about-group/disclosure/governance/>) にて「役員名簿」を公開

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	物流等関連企業代表取締役社長	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業監査役	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	金融機関顧問	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	経済研究機関専務理事	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業取締役	令和7年6月12日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業常務取締役	令和8年6月23日～2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学校法人運営についての意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沼津情報・ビジネス専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書(シラバス)について 1 1月～ 次年度の授業計画を策定 1 2月～ 教員への授業計画書(シラバス)作成依頼 ※授業計画書(シラバス)のテンプレート配布 ※授業計画書(シラバス)のガイドライン配布 2月～ 授業計画書(シラバス)の回収と確認 3月～ 授業計画書(シラバス)の確認と修正 4月～ 授業計画書(シラバス)の配布と説明 授業計画書(シラバス)の公表	
授業計画書の公表方法	沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ https://www.numasen.ac.jp/public/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業での出欠管理を徹底し、授業内で確認テストを行うなど理解度のチェックを行っている。さらに、前期または後期、あるいはその両方において、授業計画書(シラバス)に定めた科目修了試験、期末試験を実施し評価を行う。 また、科目によっては作品やレポートの提出によって評価を行っている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【令和 8 年度の入学生】

成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{秀} \cdot \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) \div \text{履修した基準科目の総単位数}$$

【令和 8 年度以前の入学生】

成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は 4 段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ
<https://www.numasen.ac.jp/public/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【令和8年度の入学生】本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与すること」を目的としており、本校の卒業生は、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下の卒業要件すべてに該当するもので、校長が認めた者に卒業を認定している。

1. 修業年限以上の在籍
2. 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
3. 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
4. 学納金に未納がないこと

卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和8年度以前の入学生】本校は、学則にある「学校教育法に基づき、工業における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業実務、衛生、教育・社会福祉における実務教育による知性高く教養深い有能な職業人や教育者の育成を通して、地域社会の発展に寄与すること」を目的としており、本校の卒業生は、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、全ての科目を修得(不可科目がないこと)した者に卒業を認定している。

(卒業要件)

卒業認定は以下のすべてに該当するもので、校長が認めた者とする。

1. 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
2. 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること
3. 査定日現在で学納金に未納がないこと

卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ
<https://www.numasen.ac.jp/public/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	沼津情報・ビジネス専門学校
設置者名	学校法人静岡理科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	静岡理科大学グループ ホームページ https://sist-net.ac.jp/about-group/disclosure/financial-statements-and-activity-reports/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		専門課程	コンピュータ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	75 (2040)	30 (1, 050)	58 (1, 230)	(60)		
			88 (2, 340)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		82 人	2 人	4 人	14 人	18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11月～ 次年度の授業計画を策定 12月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表
成績評価の基準・方法
（概要） 【令和8年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100点）、5段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の3分の2に満たない場合や「59点以下」

及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は5段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

$$\text{成績評価指数} = (\text{秀} \cdot \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) \div \text{履修した基準科目の総単位数}$$

【令和8年度以前の入学生】

成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4段階評語（優・良・可・不可）により表す。「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

$$\text{成績評価指数} = (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和 8 年度以降の入学生】

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

【令和 8 年度以前の入学生】

(卒業要件)

- 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
- 2 総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること
- 3 査定日現在で学納金に未納がないこと

以上

学修支援等

(概要)

- ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導
- ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
48 人 (100%)	1 人 (2.1%)	47 人 (97.9%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(株)アイティエス、臼井国際産業(株)、(株)ケアコネクトジャパン、(株)コサウエル、スルガ銀行(株)、(株)ドゥシステム、(株)NEXUS、矢崎総業(株)、(株)メトロ 他			
(就職指導内容)			
身だしなみ指導、業界・企業研究、筆記試験対策、面接指導、自己分析、履歴書添削、学内企業説明会、個別面談・就職相談 他			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
・応用情報技術者：2 名・基本情報技術者：16 名・情報セキュリティマネジメント：1 名 ・C 言語プログラミング能力認定試験：2 級 21 名、3 級 62 名・CompTIA ITF+：70 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
94 人	8 人	8.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気療養、経済的困窮		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	高度 IT エンジニア科 (旧高度 IT ビジネス科)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	124 (3, 930)	102 (1, 830)	65 (2, 100)			
			167 (3, 930)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
85 人		93 人	0 人	2 人	18 人	20 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 (シラバス) について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書 (シラバス) 作成依頼 ※授業計画書 (シラバス) のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書 (シラバス) の回収と確認 3 月～ 授業計画書 (シラバス) の確認と修正 4 月～ 授業計画書 (シラバス) の配布と説明 授業計画書 (シラバス) の公表
成績評価の基準・方法
(概要) 【令和 8 年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点 (0～100 点)、5 段階評語 (秀・優・良・可・不可) により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1)

÷履修した基準科目の総単位数

【令和 8 年度以前の入学生】

成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。

「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。

また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明書は 4 段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

= (優の科目数×4+良の科目数×2+可の科目数×1) ÷ 全科目数×4

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

●専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。

●情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。

●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和 8 年度以降の入学生】 (卒業要件) 1 修業年限以上の在籍 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得 4 学納金に未納がないこと 【令和 8 年度以前の入学生】 (卒業要件) 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと 2 総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること 3 査定日現在で学納金に未納がないこと 以上	
学修支援等	
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19 人 (100%)	0 人 (0%)	19 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)アルファシステムズ、(株)ヒューマンシステム、(株)メトロ、(株)ハッピーデザイン、 TDC ソフト(株)、(株)システナ、エールビジネスコンサルティング(株)、(株)SBS 情報システム			
(就職指導内容) 自己分析、身だしなみ指導、企業・業界研究、筆記試験対策、面接指導 エントリーシート・履歴書添削、学内企業セミナー、他			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・情報処理安全確保支援士：1 名・応用情報技術者：2 名・基本情報技術者：11 名 ・LinuCLevel1 101：5 名・LinuCLevel1 102：1 名・サイバー大学卒業：17 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82 人	2 人	2.4%
(中途退学の主な理由) 適応障害診断 1 名、虚弱体質による登校困難 1 名		

(中退防止・中退者支援のための取組)
学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	CG デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	93 (3, 060)	46 (360)	64 (3, 180)	1 (300)		
			111 (3, 840)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
65 人		70 人	0 人	2 人	15 人	17 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表			
成績評価の基準・方法			
（概要） 【令和 8 年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数 【令和8年度以前の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100点）、4段階評語（優・良・可・不可）により表す。 「59点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は4段階評価の評語で表示される。 <table> <tr> <th>評語</th><th>素点</th><th>意味</th><th>ポイント</th></tr> <tr> <td>優</td><td>80～100点</td><td>到達目標をほぼ達成している。</td><td>4</td></tr> <tr> <td>良</td><td>70～79点</td><td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td><td>2</td></tr> <tr> <td>可</td><td>60～69点</td><td>到達目標の最低限は満たしている。</td><td>1</td></tr> <tr> <td>不可</td><td>0～59点</td><td>到達目標を充足していない。</td><td>0</td></tr> </table> 成績評価指数 = (優の科目数×4+良の科目数×2+可の科目数×1) ÷ 全科目数×4				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準 （概要） 本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 ●専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ●情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。 ●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。 【令和8年度以降の入学生】 （卒業要件） 1 修業年限以上の在籍 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得 4 学納金に未納がないこと																							

【令和 8 年度以前の入学生】 (卒業要件) 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと 2 総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること 3 査定日現在で学納金に未納がないこと 以上	
学修支援等	
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (96.2%)	1 人 (3.8%)
(主な就職、業界等) (株)サンジゲン、東洋印刷(株)、(株)アビリブ、矢崎部品(株)ものづくりセンター			
(就職指導内容) 自己分析、身だしなみ講座、スーツ講座、企業・業界研究、筆記試験対策、履歴書作成指導、面接対策、模擬面接 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ C G クリエイター検定ベーシック 27 人・静岡新聞広告賞バーチャル賞 ・色彩検定 3 級 19 人・第 14 回静岡県ものづくり競技会ポスターコンペティション最優秀賞			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
78 人	3 人	3.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気療養		
中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	ゲームクリエイト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	124(3, 930)	102 (1, 830)	65 (2, 100)			
			167(3, 930)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
65 人		61 人	0 人	3 人	14 人	17 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表			
成績評価の基準・方法			
（概要） 【令和 8 年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数			
【令和 8 年度以前の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。 「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明			

書は4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和8年度以降の入学生】

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

【令和8年度以前の入学生】

(卒業要件)

- 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
- 2 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること
- 3 査定日現在で学納金に未納がないこと

以上

学修支援等
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) エスプラネット㈱、㈱ドゥシステム、㈱久保田情報技研、東洋技研㈱、㈱データサービスセンター、㈱コサウェル、㈱アルプスビジネスサービス、㈱ホープクリエイト、コイト電工㈱、ABCシステム㈱、㈱協立ソリューションズ、(有)システムイン、 ㈱ヒューマンパワー（SE・プログラム、ソフトウェア業、情報処理サービス業界）			
(就職指導内容) 自己分析、身だしなみ講座、業界研究、SPI・CAB・GAB、小論文対策、面接指導、エントリーシート添削、月1～2回の就職進路相談 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・基本情報技術者試験1名・C言語プログラミング能力認定試験2級15名 ・CGエンジニア検定ベーシック15名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
73 人	7 人	9.6%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の低下、就職への不安による進路変更。学費未納における除籍		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネスソリューション科 (旧 ビジネス科)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数 (総単位時間数)	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62(2040)	22 (480)	39 (1, 410)	4 (150)		
			65(2, 040)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70 人		70 人	1 人	2 人	10 人	12 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業計画書 (シラバス) について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書 (シラバス) 作成依頼 ※授業計画書 (シラバス) のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書 (シラバス) の回収と確認 3 月～ 授業計画書 (シラバス) の確認と修正 4 月～ 授業計画書 (シラバス) の配布と説明 授業計画書 (シラバス) の公表			
成績評価の基準・方法			
(概要) 【令和 8 年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点 (0～100 点)、5 段階評語 (秀・優・良・可・不可) により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1) ÷ 履修した基準科目の総単位数			
【令和 8 年度以前の入学生】 成績は、科目ごとに素点 (0～100 点)、4 段階評語 (優・良・可・不可) により表す。 「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明			

書は4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和8年度以降の入学生】

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

【令和8年度以前の入学生】

(卒業要件)

- 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
- 2 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること
- 3 査定日現在で学納金に未納がないこと

以上

学修支援等
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (95%)	1 人 (5%)
(主な就職、業界等) 沼津信用金庫、静岡中央銀行(株)、平野会計事務所、矢崎総業(株)、興和(株) 他			
(就職指導内容) 筆記試験対策、身だしなみ指導、個別面談、求人紹介、履歴書添削、面接指導 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) FP 技能検定 2 級 2 名、FP 技能検定 3 級 22 名、日商簿記検定 3 級 14 名 MOS Associate 認定 19 名、MOS Expert 認定 9 名、秘書検定 3 級 36 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	2 人	3.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療事務科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位数時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62(2,040)	40 (390)	30 (1,500)	3 (150)		
			73(2,040) 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		19 人	0 人	2 人	14 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画書（シラバス）について

11 月～ 次年度の授業計画を策定

12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼

※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布

2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認

3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正

4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明

授業計画書（シラバス）の公表

成績評価の基準・方法

（概要）

【令和 8 年度以降の入学生】

成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修 得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 ＝（秀・優の単位数×3＋良の単位数×2＋可の単位数×1）
÷履修した基準科目の総単位数

【令和 8 年度以前の入学生】

成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明書は 4 段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和 8 年度以降の入学生】

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

【令和 8 年度以前の入学生】

(卒業要件)

- 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
- 2 総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること
- 3 査定日現在で学納金に未納がないこと

以上

学修支援等
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 聖隷沼津病院、西島病院、伊豆保健医療センター、フジ虎ノ門グループ、東部病院、富士整形外科病院、聖隷富士病院、芹沢病院、武蔵野赤十字病院、他			
(就職指導内容) 身だしなみ指導、病院見学、業界研究のための企業講演、実習前事前指導、医療機関実習、履歴書添削、面接指導、筆記試験対策 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・診療報酬請求事務能力認定試験 9 名 ・医師事務作業補助技能認定 5 名 ・医療秘書技能認定試験 準 1 級 5 名 ・医事コンピュータ技能認定試験 2 級 10 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	1 人	3.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
教育・社会福祉		専門課程	こども保育科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	93 (3, 135)	46 (1, 075)	62 (1, 730)	39 (330)		
			147 (3, 135)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		70 人	0 人	2 人	20 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表			
成績評価の基準・方法			
（概要） 【令和 8 年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数			
【令和 8 年度以前の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。 「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明			

書は4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和8年度以降の入学生】

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

【令和8年度以前の入学生】

(卒業要件)

- 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
- 2 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること
- 3 査定日現在で学納金に未納がないこと

以上

学修支援等
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 桜ヶ丘幼稚園 認定こども園こずわ幼稚園 しんあい保育園 御殿場市役所			
(就職指導内容) 園見学のサポート、面接・実技試験対策、身だしなみ指導、面接指導 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・保育士資格 15 名・幼稚園教諭二種免許状 13 名・社会福祉主事(任用)16 名 ・リトミック検定 1 級 19 名・秘書検定 2 級 4 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	3 人	5.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		専門課程	公務員科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	0 (2, 040)		0 (1, 020)			
			0 (1, 020)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		6 人	0 人	1 人	8 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表			
成績評価の基準・方法			
（概要） 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。 「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明書は 4 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数			
$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。			

●専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ●情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。 ●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。 (卒業要件) 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと 2 総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること 3 査定日現在で学納金に未納がないこと 以上
学修支援等
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8 人 (100%)	0 人 (0 %)	6 人 (75%)	2 人 (25%)
(主な就職、業界等) 国家一般職、消防職員、ALSOK（株）、（株）あおき			
(就職指導内容) 筆記試験対策、身だしなみ指導、個別面談、エントリーシート添削、面接指導 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) MOS Excel365			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		専門課程	国際ビジネス科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	0（2, 400）	0 (370)	0 (1, 230)				
			0 (1, 600)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	総教員数
40 人		43 人	43 人		1 人		11 人	12 人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業計画書 (シラバス) について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書 (シラバス) 作成依頼 ※授業計画書 (シラバス) のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書 (シラバス) の回収と確認 3 月～ 授業計画書 (シラバス) の確認と修正 4 月～ 授業計画書 (シラバス) の配布と説明 授業計画書 (シラバス) の公表			
成績評価の基準・方法			
(概要) 成績は、科目ごとに素点 (0～100 点)、4 段階評語 (優・良・可・不可) により表す。 「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明書は 4 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数 = (優の科目数×4+良の科目数×2+可の科目数×1) ÷ 全科目数×4			

卒業・進級の認定基準	
(概要) 本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 ●専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ●情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。 ●様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。 (卒業要件) 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと 2 総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること 3 査定日現在で学納金に未納がないこと 以上	
学修支援等	
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) ホテル業界			
(就職指導内容) 日本の企業理解、面接練習、履歴書添削、身だしなみ指導、進路相談 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力検定試験 N2 合格者数 3 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	5 人	9.8%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	国際ホテル・旅館科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 (0)	9 (0)	25 (0)			
			34 (0)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		23 人	23 人	1 人	7 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。	

評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1)

÷履修した基準科目の総単位数

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

以上

学修支援等

(概要)

- ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導
- ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 令和 8 年度新設のため無し。			
（就職指導内容） 日本の企業理解、面接練習、履歴書添削、身だしなみ指導、進路相談 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 令和 8 年度新設のため無し。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 令和 8 年度新設のため無し。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	製菓・製パン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数（総単位時間数）	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 (2, 220)	27 (630)	8 (420)	2 (90)		33 (1, 080)
			70 (2, 220)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		46 人	0 人	2 人	19 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 授業計画書（シラバス）について 11 月～ 次年度の授業計画を策定 12 月～ 教員への授業計画書（シラバス）作成依頼 ※授業計画書（シラバス）のテンプレート、ガイドライン配布 2 月～ 授業計画書（シラバス）の回収と確認 3 月～ 授業計画書（シラバス）の確認と修正 4 月～ 授業計画書（シラバス）の配布と説明 授業計画書（シラバス）の公表			
成績評価の基準・方法			
（概要） 【令和 8 年度以降の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、5 段階評語（秀・優・良・可・不可）により表す。科目の出席時限数とその総時間数の 3 分の 2 に満たない場合や「59 点以下」及び「不可」は不合格となり、単位を修得することができない。また成績評価をポイントに変換し、その総和を履修した基準科目の総単位数で割ったものを成績評価指標とする。成績証明書は 5 段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
秀	90～100 点	到達目標を達成している。	3
優	80～89 点	到達目標をほぼ達成している。	3
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数 = (秀・優の単位数×3+良の単位数×2+可の単位数×1) ÷履修した基準科目の総単位数 【令和 8 年度以前の入学生】 成績は、科目ごとに素点（0～100 点）、4 段階評語（優・良・可・不可）により表す。 「59 点以下」及び「不可」は不合格となり単位を修得することができない。 また成績評価をポイントに変換し、その総和の 平均を成績評価指標とする。成績証明			

書は4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80～100 点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79 点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69 点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59 点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数

$$= (\text{優の科目数} \times 4 + \text{良の科目数} \times 2 + \text{可の科目数} \times 1) \div \text{全科目数} \times 4$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、産業の発展に対応する情報処理及び関連する技術と商業分野における実務教育及び関連する部門の技術を教育するとともに教育に関する学科、衛生に関する学科、一般教養に関する学科も授けて、知性高く教養の深い近代的中堅技術者を養成し、産業の振興に寄与する」ことが教育目標であり、卒業生は学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 情報処理、キャリア教育等社会人として必要な基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、以下のすべてに該当するもので、校長が認めたものとする。なお、卒業の認定については、担当が卒業要件の確認を行った上で、卒業査定会議において協議し、校長が判定を行う。

【令和8年度以降の入学生】

(卒業要件)

- 1 修業年限以上の在籍
- 2 必修科目（必修選択科目含む）すべての単位修得
- 3 必修科目と選択科目併せて、卒業に必要な単位数以上の修得
- 4 学納金に未納がないこと

【令和8年度以前の入学生】

(卒業要件)

- 1 必修科目及び選択必修科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと
- 2 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること
- 3 査定日現在で学納金に未納がないこと

以上

学修支援等
(概要) ・指導教員との面談 ・習熟度別の補習 ・個別指導 ・家庭連絡により保護者と連携して指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17 人 (100%)	0 人 (0%)	17 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)ホテル・ニューグランド、オリックス・ホテルマネジメント、富士スピードウェイホテル、(有)blueberry、アンドロワ・パレ、(有)リュミエール キャトルエピス、他			
(就職指導内容) 自己分析、身だしなみ指導、面接指導、履歴書指導、業界・企業研究、他			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・製菓衛生師：15 名 ・サービス接客検定：14 名 ・ライフケアカラー検定（色彩＋フード）：7 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	1 人	2.6%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科担当教員による個人対応、出欠席の確認と保護者との連携、学校カウンセラーによるカウンセリングの実施 等		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
高度 IT エンジニア科	250,000 円	920,000 円	円	
コンピュータ科	250,000 円	980,000 円	円	
ゲームクリエイト科	250,000 円	980,000 円	円	
CG デザイン科	250,000 円	980,000 円	円	
ビジネスソリューション科	200,000 円	980,000 円	円	
医療事務科	200,000 円	980,000 円	円	
こども保育科	200,000 円	760,000 円	円	
製菓・製パン科	200,000 円	1,040,000 円	円	
国際ホテル・旅館科	150,000 円	720,000 円	円	

修学支援（任意記載事項）
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生A・準特待生B・準特待生Cを認定する。

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ (https://www.numasen.ac.jp/public/)		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 本校では令和8年度現在、本校では学校関係者評価委員会を開催し、客観的評価として改善を行っている。 学校関係者として、専門分野に係る企業実務者ならびに地域、卒業生の代表とともに、年に一度の評価委員会を設置し、学校関係者評価委員会を開催する。 本校における学校関係者評価は、前年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について、外部の学校関係者から意見をいただき、新年度の学校教育に反映させることにより、教育活動および学校運営を、より良いものに改善することを目的としている。 【主な評価項目】 (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流 【評価委員会の構成】 定員：11名（企業/関連団体：7名 地域・教育関係：2名 同窓会：2名） 【評価結果の活用方法】 評価結果について、校長（責任者）を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人 沼津法人会	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	地方団体関係者
静岡県立三島長陵高等学校	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	高校・地域住民
株式会社 ディスタンス・インターナショナル	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
ランアンドケントス株式会社	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
株式会社KTSオペレーション 沼津リバーサイドホテル	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員

学校法人松濤学園 原町幼稚園	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
株式会社 雅心苑	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
医療法人社団 真養会	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
株式会社 NEXUS	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
協和警備保障株式会社	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	同窓会
沼津市役所	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	同窓会
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ (https://www.numasen.ac.jp/public/)		
(備考)		
本校では令和8年度現在、学校関係者評価委員会を開催し、客観的評価として改善を行っている。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 沼津情報・ビジネス専門学校 ホームページ (https://www.numasen.ac.jp/public/)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H122310000018
学校名（〇〇大学 等）	沼津情報・ビジネス専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人静岡理科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		134人（ 57 ）人	135人（ 61 ）人	141人（ 61 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	51人	45人	
	（うち多子世帯）	（11人）	（11人）	
	第Ⅱ区分	21人	24人	
	（うち多子世帯）	（一人）	（一人）	
	第Ⅲ区分	14人	14人	
	（うち多子世帯）	（一人）	（一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	一人	一人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	19人	20人	
	区分外（多子世帯）	22人	23人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（一）人
合計（年間）				142人（62）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	一人	0人
計	0人	一人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものにより、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	人	0人	一人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものにより、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	13人	一人	一人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	一人	一人	0人
計	13人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。